



左から飯塚結花さん(三芳おなかま子ども食堂代表)、藤岡重蔵さん(三芳おなかま農縁プロジェクトリーダー)、久保達人さん・美津恵さん(久保農園)、目崎順子さん(三芳おなかま子ども食堂副代表)

月光荘ファルベ

食べることは、

表現すること。

銀

座で100年以上続く月光荘画材店。その工場がここ三芳町で40年間絵具を作り続けているのをご存じですか。その絵具工場が今年6月にリニューアルし、カフェバーやアトリエの機能をそなえてオープンしました。職人が絵具を手作りするのを横目にお茶や軽食、ギャラリーや演芸を楽しむことができます。

芸術に触れるきっかけに

「食材を作る農家がいる、料



①カフェの横では職人が手作りの絵具を練っている。②マフィンも手作り。ギャラリーを観ながらコーヒーと共にゆっくりと味わえる。③マフィンを買うお客さん。

理人が調理して、レストランでそれを食べる人がいる。同じようにここでは絵具を作る職人がいて、それを画家が作品に仕上げ、ギャラリーで一般の人が鑑賞する。そんな場所で、実はアートの興味があるけどぎっかげがない人も、興味がない人も、気軽にきてお茶をしながらアートの触れ、その雰囲気好きになっただけです。」と月光荘店主の日比さんは言います。カフェバーでは絵具工場見学や、作品展示ができるギャラ



月光荘 店主 日比 康造 さん



店内のステージでは生演奏、ダンス、落語などのイベントも行われる。

三芳おなかま農縁プロジェクト

食べることは、

繋ぐこと。

北

永井にある休耕地で、子ども達への「食育」体験を目的とした畑「三芳おなかま農縁」の準備が進んでいます。三芳おなかま子ども食堂と北永井の久保農園がタッグを組んでプロジェクトを立ち上げました。

子ども達に食育の体験を

「自然豊かで、畑も多く広がっている三芳町ですが、休耕地ができてしまっている現状もあります。元々規格外野菜を中心に



①まずは土づくりから。米ぬかともみ殻燻炭を畑にすき込むリーダーの藤岡さん。②久保農園で収穫された野菜達。キャベツ、サラダカブ、辛味大根、人参、紅くるり大根、リーフレタスなど様々。

子ども食堂に食材を提供していましたが、休耕地を活用して食堂に提供する野菜を、子ども達と皆で作れたらいいなと思ったんです。」そう語るのは、久保農園の久保美津恵さん。久保さんは近所の休耕地を借り、その一部をこのプロジェクトに使うことを提案しました。「地域に住む子ども達には、世帯収入等の経済的格差だけでなく様々な格差問題があります。その一つが経験の格差です。旅行や色々な体験ができる子どももいればそうでな

食べることは、繋ぐこと

「食べることは、繋ぐことだと思っています。自然と人を繋げるこのプロジェクトを通して私は人と人、大人と子ども達を繋げたい。そして地域の子も達皆に食育体験をしてもらおう中で、今と未来を繋げたいと思っています。」そう話す飯塚さん。今は地域の人が利用いたただくための準備期間で、土づくりからのスタート。「来年の春頃にはこの場所で子ども達も楽しく草花や土に触れてもらえるかと思うと楽しみです。」と語っていました。

食べることは、表現すること

「食べたらずすという命の営みと同じように、何かを見たり聞いたり触ったりして感じたものを、自らが表現することで初めて感動は循環する。表現というサイクルを生活の中に入れることで暮らしが豊かになる。そんなきっかけの場所にしてもらえたら。」40年以上続く絵具工場で開くカフェが、町と芸術を繋ぐ架け橋となります。



月光荘ファルベホームページ